

令和3年度 第3回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

日時： 2021年12月22日（水）11:00～12:00

出席者： 小田急電鉄株式会社

(敬称略) 学校法人工学院大学

住友不動産株式会社

損害保険ジャパン株式会社

大成建設株式会社

東京ガス株式会社

東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社

独立行政法人都市再生機構

株式会社 NTT ドコモ

KDDI 株式会社

株式会社 JTOWER

ソフトバンク株式会社

東日本電信電話株式会社

楽天モバイル株式会社

新宿区

東京都副知事 宮坂 学

東京都フェロー

東京都デジタルサービス局

東京都都市整備局

東京都産業労働局

開催方法： Web 会議

- 議題：
1. 開会の挨拶《東京都宮坂副知事》
 2. 協議会参加者紹介
 3. 協議会の進め方・スケジュールの確認
 4. 【広報・巻き込み TF】「西新宿 Smart City WEEK 2022」・取組の実施状況の報告
 5. 【課題解決 PT・都市 OS 検討 PT】
各テーマ進捗状況、「西新宿 Smart City WEEK 2022」に向けた取組の報告
 6. 【仮説検証 PT】課題調査状況の報告
 7. 意見交換
 8. 閉会の挨拶

資料： 1. 本編資料

1. 開会の挨拶（事務局）

■ 開会の挨拶（P.2）

（宮坂副知事）

- 西新宿におけるスマートシティ化の取組には多くの民間事業者にご参画いただいております、よりよいまちとなるように行政とも連携して取組を進めていきたい。
- 東京都としても5Gアンテナ等を搭載したスマートポールを4号街路などに現在8基設置しており、今後も整備を進めて年度内に20基の設置を予定している。また今月から一部の5G活用サービスの取組も開始している。これら5Gやその他の先端技術を活用したサービスを集中させ、都民に対して取組を発信するイベントを1/22（土）、23（日）に開催予定である。イベントでは、本協議会と連携して西新宿エリアをどのようにデジタル化していくかを発信していきたい。今後のまちづくりに向けて都民からフィードバックをいただけるような期間となるようご協力をお願いしたい。
- 西新宿の生活者にはこのような取組を体験するだけでなく、まちづくりに参加いただきたと考えている。生活者から、5Gや先端技術を活用してまちをどのように変えていきたいかの意見をいただくことで、今後の取組の発展に繋げていきたい。
- 先日もオードリー・タン氏がスマートシティではなくスマートシチズンを目指すべきだと発言していたが、西新宿においても居住者や通勤者、来街者がどのようなまちやサービスを望んでいるのかについて意見を表明できるスマートシティを目指していきたい。

■ 議事次第（P.3）

- 本日の協議会の目的は、「西新宿Smart City WEEK 2022」の概要を確認すること、西新宿スマートシティ協議会における各取組の進捗状況を確認すること、今後の取組スケジュールを確認することの3点である。

2. 協議会参加者紹介（事務局）

■ 協議会参加者紹介（P.4）

3. 協議会の進め方・スケジュールの確認（事務局）

- 西新宿スマートシティ協議会の概要、各PT/TFの位置づけ（P.5～8）
- R3 年度会議体実施スケジュール全体像（P.9）
- 来年1月に予定している「西新宿Smart City WEEK 2022」におけるイベントの企画内容と、各PT/TFで取り組んできた内容について報告する。「西新宿Smart City WEEK 2022」は同時期に開催している東京都主催の「5G Connected City 西新宿 2022」とも連携予定である。

4. 【広報・巻き込みTF】「西新宿Smart City WEEK 2022」・取組の実施状況の報告（事務局）

- 広報・巻き込みTFの実施方針案、全体像（P.10～12）
- 広報・巻き込み活動として、「西新宿Smart City WEEK 2022」、認知度向上施策、意見交換

会、勉強会に加え、ホームページやLINEの運用を行っている。

■ 「西新宿Smart City WEEK 2022」の企画状況（P.13~17）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- 1/14（金）から31（月）まで、協議会主催で「西新宿Smart City WEEK 2022」を開催する。課題解決PTの各中長期プロジェクトで行っている実証等の取組を同時期に集中させることで大きなインパクトと都民への訴求を目指している。ランディングページを構築し、多くの取組をまとめて1つの世界観として発信する。
- 中長期プロジェクト等の取組を集め、西新宿におけるスマートシティ化の全体像を示したい。「未来の当たり前に触れられる18日間」として西新宿での取組への認知・関心の高まりと企業間の連携強化を図ることで更なる参画を促していく。各取組は西新宿の生活者に訴求しやすいように4つのカテゴリーに分けて発信する。「見てみよう」「使ってみよう」「乗ってみよう」「探してみよう」の4つのカテゴリーに取組を分類することで、より一体感を持たせて西新宿の取組を発信していく。
- 「西新宿Smart City WEEK 2022」では20件程度の取組をまとめて発信することを予定している。
- ランディングページではイベント概要のほかに、イメージムービーやイメージキャラクター「スマシー」を作成し、協議会LINEへの登録者増加を図る。「西新宿Smart City WEEK 2022」の効果検証としては取組の認知度向上と関心の高まりを計測するため、ランディングページや協議会ホームページのアクセス数と協議会LINEの友達登録者数推移を注視していく。

■ 西新宿エリアにおける東京都デジタルサービス局の取組み（P.18）

（東京都 デジタルサービス局）

- 1/22（土）と23（日）に、東京都主催で「5G Connected City 西新宿 2022」を開催する。5Gや先端技術を活用したサービスを多くの都民に体験いただくことを目的としている。「西新宿Smart City WEEK 2022」の期間中の開催となるため、広報や会場で連携して開催できるように準備を進めている。会場はオフラインとオンラインの両方を予定しており、オンラインでは特設ホームページにイベントの詳細を順次掲載予定であるため、ぜひご覧いただきたい。
- 大きく3つの内容を予定している。1つ目は「つながるくらし博 in 西新宿」として、西新宿の2会場にて最新のサービスを実際に体験いただけるような取組である。2つ目は「つながるLIVE in TOKYO」として、東京スカパライズオーケストラのメンバーが都内2拠点に分かれて、5Gを活用した遠隔セッションを実施する。3つ目は「つながる楽しいくらしTV」として、お笑いコンビの和牛を迎え、5Gがもたらす新たなくらしの姿を、情報番組風楽しくわかりやすく生配信する企画を予定している。

■ 広報・巻き込み活動状況（P.19~21）

- 意見交換会は、11月に小田急電鉄が開催し、LINEコミュニティメンバーや工学院大学の学生に参加いただいた。Candle Nightを一層盛り上げるためのリアルやデジタルの取組について、5つの

グループに分かれて参加者目線での様々なアイデアを討議した後に、発表を通じて参加者全体にアイデアを共有した。勉強会は5月から隔月で実施しており、12月はサーキュラーエコノミーをテーマに開催した。当日は20名以上の方にご参加いただき、質疑応答や意見交換も活発に行った。今後も開催を予定しているので、皆様にも是非ご参加いただきたい。

- ホームページは、お知らせの配信や、各プロジェクトの紹介ページの作成、更新などを行っており、一定のページビュー数と訪問者数を維持している。その中でも第2回協議会に関するツイートや発信が重なったタイミングで一時的に増加している。LINEは、よりフランクな文面で西新宿に関する情報発信を行っている。意見交換会や「西新宿 Smart City WEEK 2022」の体験機会等でのイベント参加者との接点を通じて、LINE登録者数の増加に繋げていく。

5. 【課題解決PT・都市OS検討PT】

各テーマ進捗状況、「西新宿Smart City WEEK 2022」に向けた取組の報告（事務局）

- 課題解決PT・都市OS検討PTの実施方針案（P.22~23）
- 中長期的な視点での検討テーマの全体像（P.24~26）
- 課題解決PTの4テーマと都市OS検討PTの1テーマの計5つを対象テーマとしている。
- 計7つのプロジェクトが推進されており、本日は各プロジェクトについて、各リーダー・参加者よりご報告をいただく。

—以下各プロジェクトの説明—

テーマ① 地域の魅力創出（P.27~31）

（小田急電鉄株式会社）

- 「地域の魅力創出」をテーマに新宿WoWプロジェクトを推進している。
- 今年度の取組は大きく「Candle Night @ Shinjuku」と「Beyond the Frame Festival」の2つである。
- Candle Nightについては意見交換会も実施したが、新型コロナウイルス感染状況も落ち着いてきており開催を予定している。例年新宿中央公園で行っている取組は12/24（金）と25（土）に開催予定であるが、今年は新宿駅直近の再開発が進む中で、鉄道事業者5社が連携して新宿駅東口駅前広場にて12/17（金）と18（土）にも開催した。新宿駅東口駅前広場での取組にも多くの方に参加いただき大変盛況であった。新宿中央公園ではキャンドルを3,000個並べるので、都庁の上からの観覧や実際に足をお運びいただきたい。イベントとしてもキャンドルを並べるだけでなく、様々な取組のハブになりたいと考えており、連携して複数のイベントを行う。「TWINKLE PARK」として水の広場を中心にイルミネーションを実施するとともに、工学院大学の学生と連携してプロジェクションマッピングも行う。また、エイベックスと連携して音声ARにより物語が展開されるような施策も実施している。
- Beyond the Frame Festivalとして日本初のXR映画祭を開催している。VR(3DoF、6DoF)やAR、MRを体験できる取組となっている。オフラインでは12/16（木）から19（日）に開催済で

あり、小田急ホテルセンチュリーサザンタワー内にて次世代のXRを体験できる取組を行った。オンラインは12/16（木）から1/15（土）まで開催中である。また、台湾やフランス、カナダの団体とXRについてのトークイベントも開催し、海外にも西新宿を広く発信していければと考えている。

テーマ② 認知度向上・地域への参画促進（P.32～44）

（東日本電信電話株式会社）

- 「認知度向上・地域への参画促進」をテーマに地域のコミュニティ活動を推進している。
- 取組としてはウォーキングコミュニティと日本舞踊コミュニティの活動を実施する。
- ウォーキングコミュニティはサッカーチーム「クリアソン新宿」と連携し12/13（月）に1回目のコミュニティ活動を実施した。先日クリアソン新宿がJFLに昇格したため、「西新宿Smart City WEEK 2022」の期間中にファンとの交流イベントも開催したいと考えている。
- 日本舞踊コミュニティは年末年始を開催期間に設定していたが、参加者があまり増えなかったこともあり初回開催を1/13（木）に変更し、2/17（木）に最終発表会を開催できるようなスケジュールを予定している。「西新宿Smart City WEEK 2022」期間中には飛び入り参加も含めてより多くの方に参加いただけるよう検討を進めている。YouTubeでもオンライン配信を検討しており、限定公開にて閲覧いただけるように準備を進めている。また、台湾の日本語学生にも見てもらい西新宿を知ってもらえるような取組も検討中である。

（株式会社ジョルテ）

- 「認知度向上・地域への参画促進」をテーマにスマートシティカレンダーの構築を進めている。
- 西新宿エリアの統一的な情報発信を目指して、情報収集とメディアの構築を行っている。西新宿エリアでは様々な小規模のイベントを把握する方法がなく、そもそもデジタル化されていないものも多いのが現状である。それらの情報を集約し、時系列に並べてカレンダー形式で配信することを目指している。
- 今年度はまず西新宿エリアで開催される大きなイベントの情報を集約する。イベントバンク社にてイベント情報等を収集しており、その情報を集約しつつさらに情報を追加していくことを予定している。
- 西新宿エリアでのイベントに加え、飲食店やギャラリーのイベントや店舗情報の集約も進めていく。
- カレンダーの見せ方やUIを検討中であり、スマホやテレビ等にて閲覧できるようなシステムの構築を進めている。イベントや各店舗の情報だけではなく、中長期プロジェクトを含む様々なサービスと連携できるようなプラットフォームを目指している。

（株式会社角川アスキー総合研究所）

- 「認知度向上・地域への参画促進」をテーマに西新宿LOVE Walkerの配信を行っている。
- 地元愛を訴求し地域を活性化できるよう、情報発信だけでなく地域の方と一緒に作るメディア（UGM：User Generated Media）の構築を目指している。
- WEBとTwitterにて既に発信を行っており、WEBの月間ページビュー数が30万PV、ユーザー数が

5万UUを達成している。Twitterも立ち上げ以来1年で13,000フォロワーを達成した。

- 情報発信に向けた様々な企業や団体との連携についてもKPIを20団体としていたところ、すでに14の団体にご協力いただけている。今後もさらに連携団体を増やしていきたい。日々記事配信を行っており、平均月間記事本数は90本以上となっている。また、新宿中央公園検定とも連携して告知を実施した。
- 今後は新宿グランドターミナルのシリーズ連載や、工学院大学の学生によるコラムの掲載に加え、YouTube Liveでの生放送配信を2021年度中に開始する予定である。「西新宿Smart City WEEK 2022」についても積極的な告知やイベント協力を予定している。

テーマ③ 移動環境の整備 (P.45~49)

(損害保険ジャパン株式会社)

- 「移動環境の整備」をテーマに、次世代モビリティプロジェクトを推進している。
- 西新宿エリアでの通勤やショッピング等、様々なシチュエーションで利用されるような移動環境の構築を目指している。特に今年度は自動運転に関する実証実験を2つ行っている。
- 1つ目はタクシーによる自動運転サービス実証実験である。ヒトの移動サービスを提供する実証であり、東京都の「西新宿エリアにおける自動運転移動サービス実現に向けた5Gを活用したサービスモデルの構築に関するプロジェクト」に採択されている。「西新宿Smart City WEEK 2022」の期間にあわせて、新宿駅から新宿中央公園までを走行するルートにて実証実験を実施する。自動運転タクシーを既存交通が混在した中で安全に走行させるため、インフラ整備を東京都や各種事業者にご協力いただき実現している。既に実証実験の参加者募集を開始している。
- 2つ目は自動配送サービス実証実験であり、こちらはモノの移動サービスである。東京都の「5Gを含む先端技術を活用した西新宿エリアにおけるスマートシティサービス実証事業」に採択されており、ロボットによりモノやサービスのラストワンマイル配送を実現する。自動運転タクシーと同様に「西新宿Smart City WEEK 2022」期間中の実証実験を予定している。小田急電鉄とも連携し、ハイアットリージェンシー東京から新宿中央公園に食べ物等を配送できるようなサービスを検討中である。自動配送による道路の混雑解消や効率的な配送とともに、より良いサービスの提供で西新宿の生活者に楽しさを届けるサービスの実現を目指している。

テーマ④ 新たなワークスタイルの確立 (P.50~55)

(株式会社KDDI総合研究所)

- 「新たなワークスタイルの確立」をテーマに、西新宿CAMPプロジェクトを推進している。
- 生活者・事業者が集まるクリエイティブなワークスペースのデザインと、ジョブマッチングによる交流機会の増大を促しワークスペースをよりクリエイティブな場にすることを目指している。
- ワークスペースはモンゴルのゲル風のテントを屋外に設置することを予定している。テントのため設置が簡便であり容易に移動ができ、室内には5G通信を活用したオンライングループワークスペースを実現する。2022年の2~3月に設置できるよう準備を進めている。

- ジョブマッチングでは複数社が参加する複業プラットフォームの構築を目指しており、社外人材とのマッチングにより情報の連携や生産性の向上を図る。

テーマ⑤ エリア共通基盤の整備 (P.56~67)

(事務局)

- 「エリア共通基盤の整備」をテーマに、西新宿TSUNAGUプロジェクトを推進している。
- エリア共通基盤の整備のため、データ、システムだけでなく、共通基盤を利活用するためのルールや、共通基盤を管理・運用するための体制を加えた計4つの論点で検討を進めている。特に体制は、共通基盤の検討のみに留まらず、西新宿エリアにおけるスマートシティを推進するための視点での全体的な検討が必要である。

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

- 西新宿エリアOSとしてユースケースを3つ構築している。1つ目は西新宿エリアのオープンスペース情報の現状を正しく知るためのデータライブラリ、2つ目はオープンスペースの空き状況等を分かりやすく伝えるためのダッシュボード、3つ目はオープンスペース利活用者のサービスを高度化するための人流予測シミュレータである。
- 3つのユースケースの構築にあたっては、オープンスペース利活用におけるハイレベルフローをもとに必要となる機能や情報を検討し、それぞれを実現できる形で3つのユースケースの要件を整理した。
- 西新宿エリアにおいてはオープンスペース情報や人流等の情報が集約されていない課題があり、データライブラリとして情報の集約を進めている。閲覧権限を設定して、各種データの閲覧やダウンロード、API連携ができるように機能を構築している。データとしては人流データやオープンスペース情報の収集と掲載を進めている。
- また、ダッシュボードとしてエリア内の人流データや利活用可能なオープンスペース情報に加え、オープンスペースの利活用申請や問い合わせへの対応状況の可視化を進めている。
- さらに、オープンスペース利活用者のサービス高度化のために、人流予測シミュレータとしてイベントの有無や過去の人流データをAI分析し将来7日にわたる時間帯別の人流予測を提供する機能を構築している。
- これらエリアOSの取組周知のためにランディングページを構築する。構築目的等の概要紹介に加え、3つのユースケースやダッシュボードの基盤となっている3D都市モデルの説明を掲載する。

(事務局)

- エリアOSのハイレベルフローにおいて、本年度の実証を行う上での主な課題を2つ想定している。1つ目は環境改善委員会にデータ提供依頼があった際に、データ保有者からデータを提供いただくことになるが、必要なデータが提供いただけない状況である。2つ目はスペースの利活用の相談が環境改善委員会にあった場合に、個別問い合わせ毎にスペース管理者への確認となるため、検討に時間を要してしまい、スペース提供が進まない状況である。これらの課題に対応し、本年度の実証を

進めていくため、データやスペース提供促進のためのルール作りとデータの閲覧者を明確にするための権限設定を行うことで、安心してデータ提供やスペース提供が可能な状況を作っていく予定である。

- 体制については、もともとは共通基盤の運用体制として検討を始めていたが、共通基盤の運用、管理に留まらず、スマートシティ全体を推進していくための体制を検討するべきと考えて検討を進めている。内閣府が公表しているスマートシティリファレンスアーキテクチャではスマートシティは7つの要素から構成されている。過年度の活動を通じて、西新宿スマートシティが各構成要素を満たすためには、11個の機能の確立が必要ということが分かってきた。西新宿のスマートシティ化に必要な機能については、スマートシティ化により恩恵を受ける行政や地権者、サービス提供者の間で分担していく体制を目指すべきであると考えており、具体的な検討を引き続き進めていく予定である。

6. 【仮説検証PT】課題調査状況の報告（事務局）

■ 仮説検証PTの実施方針案・課題把握アンケートの実施方針とスケジュール（P.68～72）

- アンケート①の生活者の課題調査、アンケート②のコミュニティへの参加ニーズ調査、アンケート④の効果検証は現在準備を進めており、来年2月に実施予定である。アンケート③の商店街・テナントの課題調査については、新規取組ということもあり、アンケートの周知期間を確保するため、回答期間を延長して実施している。各アンケートともに、第4回協議会にて結果を報告予定である。

■ 生活者の課題調査の実施方針（P.73～74）

- アンケート①は、各優先課題候補に対する生活者の満足度を測定することにより、今後協議会として取り組むべき優先課題の把握、アップデートを目的とした取組である。アンケート②は、既存施策であるHPやLINEの認知度を測定するとともに、コミュニティメンバーとして取り組みたい活動を把握することにより、コミュニティメンバーへの移行に向けた有効な巻き込み策の検討材料にすることを目的とした取組である。アンケート①、②は、西新宿の生活者を対象にWEBにてアンケートを実施予定である。

■ 効果検証アンケートの実施方針（P.75～77）

- アンケート④は、今年度実施した課題解決における取組が、「働く」、「遊ぶ」、「交流」環境の向上に繋がっているかを検証することで、来年度以降の取組のブラッシュアップを目的とした取組である。コミュニティメンバーに対してLINEアンケートで実施予定である。
- 西新宿における「働く」、「遊ぶ」、「交流」におけるKGIについて各プロジェクトで設定されているKPIとの紐づけを行ったうえで、LINEアンケートにて各取組に対するアンケートを実施することで、各プロジェクトの取組を通じたKGI達成の兆しを検証する。

7. 意見交換（事務局）

■ 西新宿の課題解決に向けた各プロジェクトの推進に関する討議（P.78～79）

- これまでの説明を踏まえ、「各検討テーマのプロジェクトの更なる魅力向上、円滑な推進のため、各プロジェクトへのご支援やプロジェクト間における協調が可能な点」について、皆様からご意見をいただきたい。

—以下意見交換内容—

(発言者A)

- テーマ⑤のエリアOSはオープンスペース利活用申請という具体の利用目的にもとづいて構築されており、民間事業者も参画している点で、国内でも稀有な取組である。将来的な運用体制や費用負担についての検討は今後必要であるが、そのためには共通基盤の利用者や受益者の特定が必要となるため、利用目的が定まっていることは重要である。また、システムのすべてを内製せずにPLATEAU等の既存システムを活用している点も効率的である。
- 600人程度に参加いただいているLINEコミュニティは今後の取組推進においても貴重な存在となる。登録者数の増加だけでなく、如何にコミュニティメンバーを取組に巻き込みアクティブ度を高めていけるかが課題となる。アイデアソンのような形でコミュニティメンバーに対し、「働きやすいまち」の実現にむけた意見を募集し、参加者もデザイン思考が身につく形で実施できるとよいのではないかと。大阪で実施されているコモングラウンドは参加者も各種提案をすることでデザイン思考が身につく、個人のスキルアップにもつながる取組となっている。西新宿においても同様に、コミュニティメンバーが参加することで何かを学べたり、身につけたりできるような仕組みを構築できるとよいのではないかと。
- 西新宿スマートシティ協議会の取組による効果を検証するために、生活者アンケートにてQOLの向上や意識の変化を経過観察していくことは非常に重要である。スマートシティやエリアマネジメントは将来的には不動産価値や賃料の向上につながるものと考えており、その事前段階において生活者の意識変化をエビデンスとして計測できるとよいのではないかと。インフラ基盤の整備等には公的資金の投入も必要になるため、その際の効果検証にも生活者アンケートによる意識変化のエビデンスは活用できる。前橋や会津若松でも3~5年かけて地価が向上しており、西新宿においても中長期的な取組となることが見込まれるため、継続的に効果を検証していく必要がある。

(発言者B)

- 西新宿の住民として西新宿LOVE Walkerも拝見しており、西新宿における情報発信がアクティブになっていると感じられ、とても良い。メディアを活用することで生活者を巻き込み、取組への参加者増加につながるとよい。取組への参加だけでなく、小さなアクティビティ等の取組を実施する側に巻き込めるとよいのではないかと。生活者の巻き込み方法の検討にはぜひ参加したい。
- エリアOSについては利用目的が明確化されており、今後利用者や受益者をもとに組織体制や機能分担を検討できるとよい。

(発言者C)

- 各取組における推進のスピード感に驚いている。中でもエリアOSの取組には関心があり、普段仕事の際にも情報にアクセスできないことが多いため、エリア情報が集約され、公開されることは大変価値がある。エリアOSの構築により、西新宿エリアにおけるサービスの展開が広がると考えている。

(発言者D)

- エリアOS構築にあたり4つの論点が整理されているが、5つ目として生活者の巻き込みや意見の収集方法を検討できるとよいのではないか。仮説検証PTや広報・巻き込みTFにて検討している内容ではあるが、西新宿の生活者がエリアをよくするために何をしてほしいか、どのような取組を求めているかの意見収集ができる仕組みを検討する必要がある。LINE等も活用して生活者を取組検討のプロセスに巻き込んでいけるとよいのではないか。

8. 閉会の挨拶（事務局）

■ 閉会の挨拶（P.80）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- 1年前と比べてもかなり取組が発展しており、今後どのようにこの取組を持続させるかが肝になると考えている。特に生活者を巻き込んで取組を検討するプロセスと運営する組織体制の検討が重要になる。西新宿の生活者に如何に取組に参加いただき、今後の取組発展に向けてフィードバックをいただくかが重要になる。そのためには西新宿の取組を認知するだけでなくファンになってもらうことが必要である。組織体制については民間事業者だけでなく行政とも連携する必要があるが、環境改善委員会がその中心となりヒトと情報を繋げられるように検討を進めていく。環境改善委員会も発足から12年目を迎えており、現在の取組の状況を踏まえ将来的な取組を運営できるような組織体制を検討したいと考えている。また、西新宿というエリアにおいては都庁の存在も重要だと考えており、西新宿の取組においてより一層連携していけると良いのではないか。産官学が連携し、オール西新宿として取組を推進していきたい。引き続きご協力をお願い申し上げます。

以 上